

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 元年 6 月 11 日現在

機関番号：13901

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2015～2018

課題番号：15K17283

研究課題名(和文) 幼児期・児童期における自他の心の理解の発達

研究課題名(英文) Development of mental state understanding during preschool years and elementary school years

研究代表者

溝川 藍 (Mizokawa, Ai)

名古屋大学・大学院教育発達科学研究科・准教授

研究者番号：50633492

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,100,000円

研究成果の概要(和文)：子どもは社会生活において様々な評価フィードバックを受けるが、他者から与えられる評価は、必ずしも自己評価と一致しない。本研究では、自己評価と他者評価の間に食い違いが生じている場面に着目し、失敗したにもかかわらず保育者・教師からほめられた際に、幼児・児童がどのような反応を示すのかについて検討を行った。その結果、年齢が上がるほど失敗場面ではめされた際にネガティブな反応を示すようになることと、心の理論の発達と失敗場面でのほめに対するネガティブな反応の関連が明らかになった。また、保育者・教師への質問紙調査から、子どもの特性に応じた言葉かけの実態や、保育者・教師自身の特性と言葉かけの関連が明らかになった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究では、失敗したにもかかわらず保育者・教師からほめられる場面における子どもの反応について検討を行い、自己の活動に対する評価に自他間で不一致が生じている場合に、幼児・児童が、他者からの評価をどのように受け止め、次の行動につなげているのかが明らかにされた。さらに、保育者・教師を対象に実施した質問紙調査からは、保育・教育現場における言葉かけの実態と、保育者・教師自身の特性と言葉かけの関連が示された。本研究により、子どもの発達をふまえた言葉かけを考える上での有用な知見が得られた。

研究成果の概要(英文)：Children are exposed to diverse types of evaluative feedback in their social lives. Evaluations received from others are not always congruent with children's self-evaluation. This research project examined developmental changes in children's response to incongruent praise. The first two studies with children aged 4 to 12 years found that older children showed less positive emotion than younger children when they were praised in a failure situation. It was also found that there is a correlation between children's theory of mind and their negative response to praise after failure. The third study with childcare workers and teachers found that their evaluative feedback depends on children's characteristics and their own personality and mindset.

研究分野：発達心理学

キーワード：幼児期 児童期 言葉かけ 動機づけ 認知発達

## 1. 研究開始当初の背景

「自己の心」とは異なる「他者の心」に関する理解は、幼児期から児童期にかけて飛躍的に発達する。5~6歳頃になると、子どもは、嘘やだまし、本心からではない偽りの感情表出について理解するようになる。児童期の9~10歳頃には、「Aさんは『Bさんが〇〇だと思っている』と思っている」といった再帰的な思考が可能になり、謙遜や皮肉のような「文字通りではない言葉」の理解や使用が見られる。近年、このような「ヒトの行動の背後にある心的状態を推測・解釈する能力(心の理論)」の発達と「(自己評価と一致しない)他者からの批判的評価に対する反応」の関連についての検討が進んでいる。

これまでの研究からは、自分では満足している活動の出来栄について教師から批判的評価を受ける場面において、他者の心的状態をよく理解する子どもほど、批判後に、自己の活動に関する評価が低くなるが(Cutting & Dunn, 2002; Heyman, Dweck, & Cain, 1992; Lecce, Caputi, & Hughes, 2011; Lecce, Caputi, & Pagnin, 2014; Mizokawa, 2015; Mizokawa & Lecce, 2017)、友人からの批判的評価に対する反応と心の理論の発達の間には関連がみられないこと(Mizokawa, 2015)が示されている。ここから、自己評価とは異なる他者評価を受けた際の子どもの内的体験や反応は、他者との関係性や心的状態の理解を基盤に形作られるものであり、「自他の心の理解」の発達の一つの指標であると考えられる。自己評価と他者評価が食い違う別の状況として、「子ども自身が失敗を認識しているにもかかわらず、他者から肯定的評価(ほめ)を受ける場面」がある。自己評価と一致しない肯定的評価(ほめ)は、子どもが日常的に経験しているものであると考えられる。子育てや保育・教育の現場では、子どもにとっての失敗経験に対して、大人が肯定的なフィードバックを行い、励ます場面は少なくない。ただし、関連する先行研究においては、主に成功経験に対する肯定的評価(ほめ)に焦点が当てられてきたため、失敗経験に対する肯定的評価(ほめ)に関する検討は不足していた。本研究では、この場面に着目し、これまでの研究成果(Mizokawa, 2013, 2015; Mizokawa & Lecce, 2017)を発展させる。

## 2. 研究の目的

本研究の第一の目的は、自己の活動に対する自己評価と他者評価の間に食い違いが生じている場面に着目し、幼児・児童が、自己評価とは異なる他者評価をどのように受け止め、次の行動につなげていくのかについて、認知発達との関連から検討することであった。第二の目的は、保育・教育現場において、実際に幼児・児童とかかわる大人が、子どもに対してどのような言葉かけをしているのかについて、その実態を明らかにすることであった。

## 3. 研究の方法

### (1) 幼児における失敗場面でのほめに対する反応

失敗場面での肯定的評価(ほめ)に対する幼児の反応の個人差を認知発達との関連から明らかにするため、幼児72名(年中児・年長児、平均年齢5.70歳)を対象に、個別に、「失敗・ほめ課題」(新規作成)と、心の理論課題(Harris, Johnson, Hutton, Andrews, & Cooke, 1989; Sullivan, Zaitchik, & Tager-Flusberg, 1994)、絵画語彙発達検査(PVT-R; 上野・名越・小貫, 2008)を実施した。「失敗・ほめ課題」は、「他者からの批判的評価に対する反応」に関する先行研究(Cutting & Dunn, 2002 他)の手続きを参考に作成した。この課題は、「失敗+評価なし場面」と「失敗+ほめ場面」の2つの仮想場面から構成され、いずれの場面にも参加児役の人形と保育者役の人形が登場する。「失敗+評価なし場面」では、参加児役の人形が創作活動において小さな失敗をするが、フィードバックは与えられなかった。「失敗+ほめ場面」では、参加児役の人形が創作活動で小さな失敗をした際に、保育者役の人形から「〇〇ちゃん、すごいね」と肯定的評価(ほめ)が与えられた。幼児は、各場面での「感情反応」、「自己評価」、「再挑戦の意欲」、並びに「ほめられた理由」について回答した。

### (2) 児童における失敗場面でのほめに対する反応

失敗場面での他者からの肯定的評価(ほめ)に対する反応が児童期を通じてどのように変化するかを検討するとともに、これらの反応と認知発達の関連を明らかにするため、児童455名(1年生~6年生)を対象に質問紙調査を行った。幼児を対象とした研究(1)の課題をもとにした児童版の「失敗・ほめ課題」(新規作成)と、二次の心の理論課題(Sullivan et al., 1994)、エンゲージメント尺度(梅本・田中, 2012)を含む質問紙を作成し、クラスごとに実施した。

### (3) 成功場面・失敗場面での保育者・教師の言葉かけ

保育・教育現場における成功場面・失敗場面での子どもに対する言葉かけの実態を明らかにするため、保育現場(保育所・幼稚園・こども園)、教育現場(小学校)で勤務する保育者・教師計127名を対象に調査を行った。参加者は、紙媒体の質問紙調査またはWebアンケート調査システムを通じたWeb調査に参加した。調査では、架空の子どもが成功・失敗を経験した際に、その子どもに対してどのような言葉かけをするか(ほめ言葉、励ましの言葉、失敗の指摘)について回答を求めた。また、保育者・教師の特性と子どもに対する言葉かけの関連を検討するため、自分自身のパーソナリティ及び知能観に関する質問への回答を求めた。

#### 4. 研究成果

##### (1) 幼児における失敗場面でのほめに対する反応

幼児期の子どもは、失敗場面で保育者から「○○ちゃん、すごいね」とほめられると、ポジティブ感情を経験し、失敗した活動を肯定的に評価することが明らかになった。ただし、心の理論課題の得点が高い幼児ほど、失敗場面で保育者からほめられた際に、失敗した活動をより否定的に評価することも示された。なお、仮想場面での失敗を認識した 52 名のうち、18 名が努力をほめられたと解釈し（「がんばったから等」）に、27 名が結果をほめられたと解釈していた（「上手だから」等）。これらの知見から、保育・教育現場において子どもの活動に対してフィードバックを行う際に、子ども一人ひとりの心の理論の発達を考慮する必要性が示唆された。

本研究の成果は、国際学術誌 *Frontiers in Psychology*、および The 31st International Congress of Psychology (ICP2016)、日本発達心理学会第 28 回大会において発表した。

##### (2) 児童における失敗場面でのほめに対する反応

低学年の児童は、失敗場面で教師からほめられた際に、高学年の児童と比べてポジティブな反応を示すことが明らかになった。失敗後に「すごいね、よくできたね」と結果をほめられる条件では、高学年の児童は低学年の児童と比べて、喜びを感じないだけでなく、怒りを感じ、再挑戦の意欲が低かった。一方、失敗後に「すごいね、よくがんばったね」と努力をほめられる条件では、高学年の児童は低学年の児童と比べて、喜びを感じないものの、他の指標では学年差は認められなかった。また、1 年生から 3 年生においては、二次の誤信念の理解ができる児童ほど、失敗場面でほめられても喜びを感じないことが明らかになった。さらに、学習への取り組みの意欲が低い児童ほど、失敗場面でほめられた際のポジティブ感情と再挑戦の意欲が低いことが明らかになった。

本研究の成果の一部は、The 40th annual conference of the International School Psychology Association (ISPA) において発表した。

##### (3) 成功場面・失敗場面での保育者・教師の言葉かけ

子どもの自尊心の高低によって成功場面でのほめ方に違いがあること、子どもの忍耐力の高低によって失敗場面での励まし方に違いがあることが明らかになった。例えば、自尊心・忍耐力の高い子どもに対しては、自尊心・忍耐力の低い子どもよりも、結果に関する言葉かけ（「上手にできたね」、「上手にできているよ」等）がなされることが示された。さらに、保育者・教師のパーソナリティや知能観と失敗場面での言葉かけの間に関連が見られ、勤勉性が高い者ほど、失敗を指摘する際にプロセスに言及すること（「がんばりが足りなかったね」等）、固定的な知能観を持つ者ほど、失敗を指摘する際に人物の側面に言及すること（「あなたにはちょっと難しかったね」等）が明らかになった。保育・教育の経験年数によっても言葉かけに違いが認められ、経験年数 15 年以上のベテラン群は、経験年数 7 年未満の若手群、経験年数 7 年以上 15 年未満の中堅群と比べ、場面に応じたより具体的な言葉かけを行っていることが示唆された。

なお、本調査からは、保育者・教師は、実際に失敗場面でも「すごいね」という言葉かけを行っていることが明らかになり（ほめ・励ましの言葉として「その他」を選択し具体的に記述された回答 446 件中 77 件）、研究(1)、(2)の仮想場面の妥当性が示された。

#### 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 4 件)

溝川 藍 (2018). 「日本の発達心理学」の発信：社会的文脈の中の子ども探究. *発達心理学研究*, 29, 172-180. (査読有)

Mizokawa, A. (2018). Association between children's theory of mind and responses to insincere praise. *Frontiers in Psychology*, 9:1684. doi: 10.3389/fpsyg.2018.01684 (査読有)

Mizokawa, A. & Lecce, S. (2017). Sensitivity to criticism and theory of mind: A cross cultural study on Japanese and Italian children. *European Journal of Developmental Psychology*, 14, 159-171. (査読有)

Mizokawa, A. (2015). Theory of mind and sensitivity to teacher and peer criticism among Japanese children. *Infant and Child Development*, 24, 189-205. (査読有)

〔学会発表〕(計 8 件)

溝川 藍 (2019). 家庭の感情環境と社会性の発達. 日本発達心理学会第 30 回大会, ラウンドテーブル「家庭で感情と社会性は教育できるか?—親子コミュニケーションの重要性を探る—」(2019 年 3 月 18 日, 早稲田大学, 東京)

溝川 藍 (2019). 比較文化研究から見る子どもの感情理解の発達. 日本発達心理学会第 30 回大会, 自主シンポジウム「社会的認知発達における比較文化研究の現在」(2019 年 3 月 18 日, 早稲田大学, 東京)

Mizokawa, A. (2018). Elementary school children's response to teacher praise following failure. Paper presented at the 40th annual conference of the International School Psychology Association (ISPA), Tokyo Seitoku University, Tokyo, Japan. (26th-28th July, 2018). (2018 年 7 月 27 日)

満川 藍 (2017). 関係性の中の心の理論: 比較文化的検討. 日本発達心理学会第 28 回大会 編集委員会企画シンポジウム「発達心理学を日本から発信する—若手研究者の挑戦—」(2017 年 3 月 27 日, アステールプラザ, 広島)

満川 藍 (2017). 幼児期における失敗場面での褒めに対する反応: 心の理論の発達との関連. 日本発達心理学会第 28 回大会. (2017 年 3 月 26 日, 広島国際会議場, 広島)

満川 藍 (2016). 日本・イタリアの幼児における他者からの批判的評価に対する反応. 日本教育心理学会第 58 回総会. (2016 年 10 月 9 日, サポートホール高松・かがわ国際会議場, 香川)

Mizokawa, A. (2016). Children's response to positive feedback after failure and Theory of Mind. Paper presented at the 31st International Congress of Psychology (ICP2016), Contributed Symposium "Understanding the mental state of others: Current directions in Theory of Mind research", PACIFICO Yokohama, Kanagawa, Japan. (24th-29th July, 2016). (2016 年 7 月 26 日)

Mizokawa, A. & Lecce, S. (2015). Sensitivity to teacher and peer criticism in Japanese and Italian children. Paper presented at the BPS Developmental Section & Social Section Annual Conference, The Palace Hotel, Manchester, U.K. (9th-11th, September, 2015). (2015 年 9 月 9 日)

〔図書〕(計 3 件)

満川 藍 (2018). 感情認知. 尾崎康子・森口佑介(編). 『発達科学ハンドブック第 9 巻 社会的認知の発達科学』 新曜社. Pp. 181-191.

満川 藍 (2016). 感情と心の理論. 子安増生・郷式 徹(編). 『心の理論—第 2 世代の研究へ』 新曜社. Pp. 93-104.

満川 藍 (2016). 「心の理論」と感情理解—子どものコミュニケーションを支える心の発達. 子安増生(編). 『「心の理論」から学ぶ発達の基礎—教育・保育・自閉症理解への道』 ミネルヴァ書房. Pp. 107-118.

〔産業財産権〕

○出願状況 (計 0 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年:

国内外の別:

○取得状況 (計 0 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

取得年:

国内外の別:

〔その他〕

ホームページ等

該当なし